

一般会議報告書

開催日時	令和6年 6月20日(木) 午後5時55分～午後7時37分					
会場	八雲町役場3階 議員控室					
団体名等	八雲の未来を創造する会					
参加者数	4名					
出席議員	安藤辰行、牧野仁、倉地清子、関口正博、三澤公雄、宮本雅晴、赤井睦美、佐藤智子、黒島竹満、千葉隆					
役割分担	司会者	関口	記録者	倉地	記録者	
会議のテーマ	・環境基準超え有害残土(対策土)の処分地の見直し ・ヒグマ対策について					
意見交換等	別紙のとおり					

上記のとおり提出します。

令和6年 8月22日

八雲町議会議長 千葉 隆 様

記録者 倉地清子

別紙

○環境基準超え有害残土（対策土）の処分地の見直しについて
（団体側でスライドを用いて説明）

〈団体〉

受入地は最終処分地ということなので、残土は長い間放置されることになる。地震や豪雨などが起きた場合、大丈夫なのか。黒岩C地区については、活断層の真上にあることが心配。また、今の対策は上から土をかぶせて水が入らないものとしているが、画像を見る限りでは浸食を受けているように見える。その他、水が流れている形跡も見える。傾斜があってシラリカ川へ流れて行ってしまふ。対策が不十分ではないか。

黒岩A地区、黒岩B地区の受入地についての地下水は検査してなく、理由として雨水は浸透しないからとしているが大丈夫なのか。富咲B地区の排水パイプの位置関係が疑問。工事用水として取水するための配管は手続きを取って取水されているのだろうか。富咲B地区は八雲の目玉になる観光地、水芭蕉が咲く湿地帯であり、原地盤の厚さは1mくらいしかない。機構では、厚さが3～4mあって、土壌に吸着されて環境基準が保たれていると説明。川底は岩盤なので水は横滑りする。土が流された形跡もある。岩盤がある以上、浄化はできないと思う。

現場に行って確認していただきたいと思っている。データを知ることも大事。また、逐一報告をもらおう仕組みにしてほしい。

〈議員〉

問題提起は非常に大事だと思う。新たな問題点は議会でも協議している。厳しい指摘をしている議員もいる。そこは信用していただきたい。モニタリングなどの、細かな報告ももらえるようになっていく。

〈議員〉

説明はよくわかるが、機構側の対応も信用していかなければ工事も進んでいかない。しかし、我々議員も何か問題があれば指摘をするし、町も報告をするようになっていく。

〈議員〉

議論を進めていくうえでの材料として、今回の説明のような情報共有は大事であると思う。今後もこういったかたちで情報共有していければと思う。

○ヒグマ対策について（団体側でスライドを用いて説明）

〈団体〉

ベアトラップについて40年も続いているこの行為はヒグマの徘徊を放置していることになるのではないかと。普段いないところに熊をおびき出すようなことは、出没抑止にはなっていない。熊は学習するものだ。徹底して追い払い、熊と人の境界を熊に教えることが大事ではないか。ベアトラップを八雲町ではやめてほしい。ハンターと町が知恵を出し合って対策してほしい。

駆除ばかりするのではなく、追い払うことで熊が学習し、住宅地に近づかなくなるという事例、研究結果がある。適切な駆除をお願いしたい。

〈議員〉

八雲町でも熊の頭数が増えており、適切な駆除という認識は、我々も町も持っている。

〈議員〉

道東のハンターが、昔の熊は人を見て逃げていたのが、今ではすっかり変わってしまっていると話をしていた。

〈議員〉

本当に熊が増えていると感じる。生活圏で見かける機会が増えた。八雲町のハンターは多くいるし関係も良い。どの場所に熊が多くいるのか情報がありません。行儀のよい熊ばかりではないので適切に判断していければと思う。